Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-08-03

# 教育カリキュラム改変に資することを目的とした学生による医学部臨床教育の問題点解析 「PBLへの学生テュータの導入は学生の学習意欲の増加をうながす」（助成研究報告）

小牧, 遼平 ; 水木, 真平 ; 城間, 京香 ; 金沢, 健司 ; 梅津, 道夫 ; 橋本, 正良 ; 河野, 誠司 ; 苅田, 典生

(Citation)
神戸大学医学部神緑会学術誌,31:46-48

(Issue Date)
2015-08

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81009102

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009102

# 教育カリキュラム改変に資することを目的とした学生による医学部臨床教育の問題点解析「PBLへの学生テュータの導入は学生の学習意欲の増加をうながす」

神戸大学医学部医学科学生
小牧遼平（平成26年卒），水木真平（平成27年卒）
城間京香（在学５回生）
神戸大学大学院医学研究科総合内科学　金沢健司（昭和63年卒）
同腎臓内科　梅津道夫（鹿児島大，昭和59年卒）
同プライマリ・ケア医学　橋本正良（特別会員）
同医学教育学　河野誠司（昭和61年卒）
神戸大学医学部附属病院総合臨床教育センター　苅田典生*（昭和55年卒）
*助成研究代表者

## はじめに

神戸大学医学部医学科では，2002年度から４年次学生に対してテュートリアル形式の課題解決型学習（PBL）を行っている．学生は８人の小グループにわかれ，各診療科が作成した症例ベースの課題から，課題抽出とそれに対する自己学習結果を発表し合うことで，医学知識そのものよりも，医師としての生涯学習の基盤を形成することを目的としている．各グループには１名の教員がテュータとして配置され，学生の議論をサポートする役割を担っているが，テュータと学生の関係が必ずしも円滑でない場合があり，学生からの評価も芳しくない状況があった．そのため，PBLを廃止し，従来の講義形式に逆もどりした科目もある．学生のモチベーションを高め，学習効果を向上させるために，テュートリアル教育の改革が求められている．

そこで本学では，2013年度から６年次学生を「学生テュータ」として教員とともにテュートリアルに参加させることにした．４年次学生のテュートリアルに臨む姿勢に良い影響を及ぼし，議論の促進や学習意欲の増進が望めるのではないかと考えられたが，その効果の有無を確認するために，アンケート調査を実施した．

## 方　法

2013年度の４年次テュートリアル導入科目において，前期は教員テュータのみで行い，後期から教員テュータに加えて９名の６年次学生（ボランティア）が学生テュータとしてテュートリアルに加わった．テュートリアル終了後，４年次学生（95名）に対し，学生テュータを導入したことに対する評価のアンケートを書面により行い，「学生テュータ」として参加した６年次学生（９名）に対しては，自らの学習意欲の変化や学生テュータを通じて得たものについて口頭インタビューを行った．

## 結　果

４年次学生について，学生テュータのいなかった前期テュートリアルと比較した場合，図１に示したように66名（69％）でテュートリアル学習の満足度が上昇していた．個々の評価項目に関しては図２に示した．55名（57％）の４年次学生が「議論が円滑に進んだ」と肯定的に評価していた．39名（41％）の４年次学生が「６年生のようになれたらいいなと思った」と評価した．自由記述内容は表１にまとめた．「学生の分からないところを分かってくれていたので分かりやすかった」，「学生テュータの立ち位置が不明瞭」などの意見があった．表２に示した６年次学生に対するインタビューでは，「テュータとして誘導することが難しかった」，「国試勉強にもつながった」などの意見があった．

## 考　察

今回のアンケート結果から，学生テュータを導入したことについては，４年次学生からのの評価はおおむ

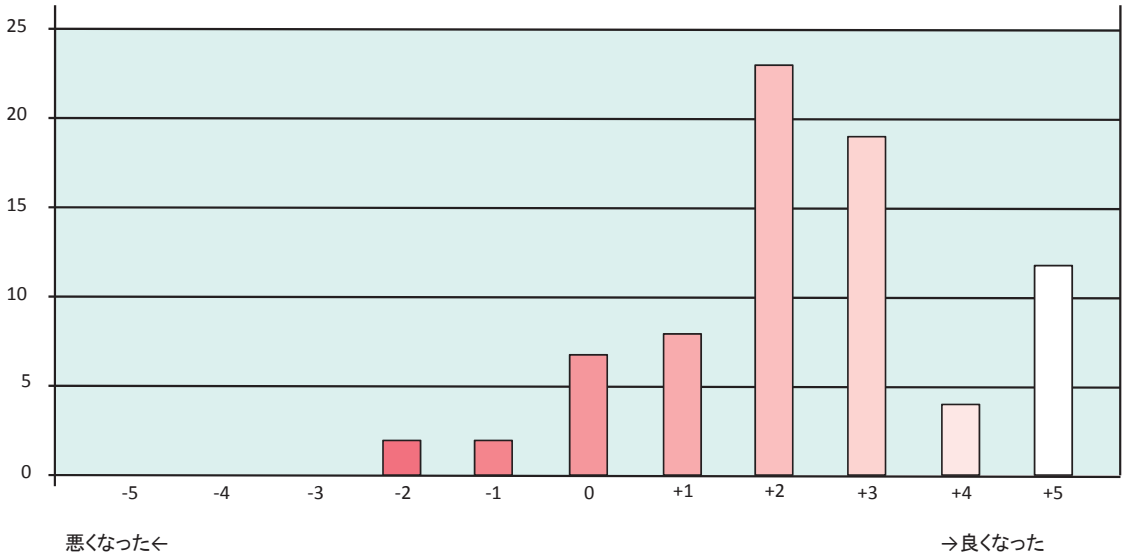


図１　前期（学生テュータなし）と比較した後期テュートリアルに対する印象（人数）

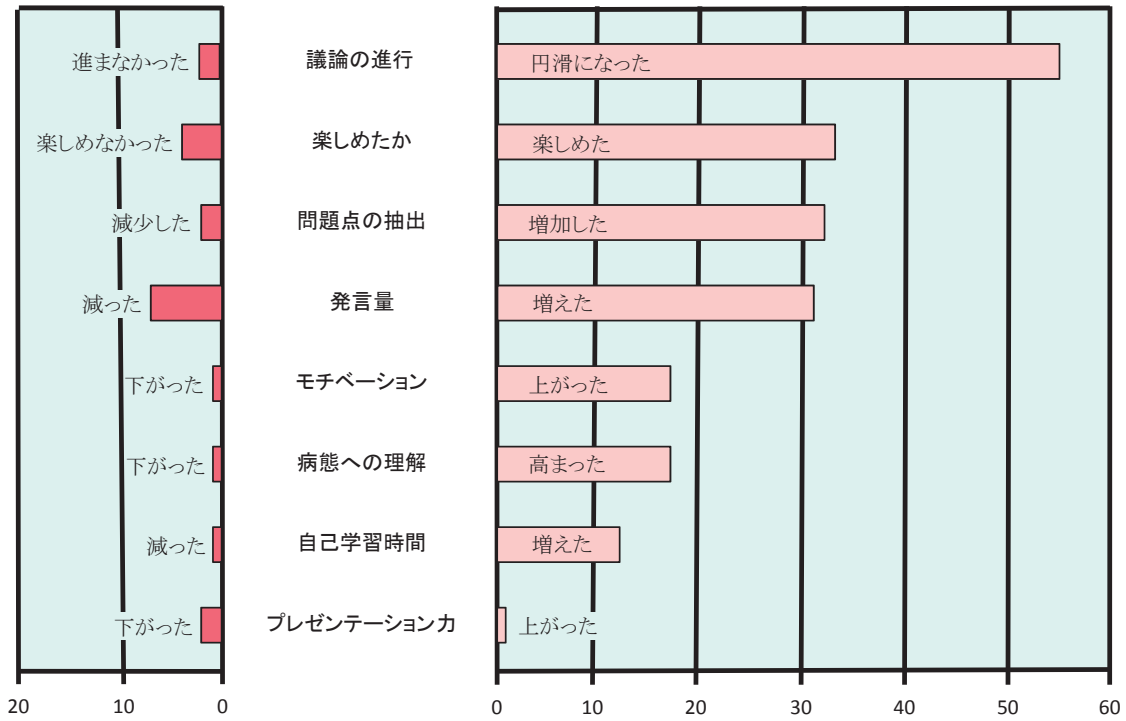


図２　前期（学生テュータなし）と比較した後期テュートリアルの項目別評価（人数）

ね好評であった．議論が円滑になり，モチベーションが上がっただけではなく，課題抽出が増えるなど，学習全般にもよい影響が見られた．

６年次学生テュータへのインタビューでも，比較的肯定的な感想がおおく，心配された国試勉強への悪影響はなかったようである．むしろ６年生にとってもテュータとして参加することで，自身の学習意欲を増す効果もあった．

一方，学生テュータの介入が過度になった場合には４年次学生の問題解決能力が育まれないこともある，という課題も見つかった．４年次学生からの指摘にもある通り，学生テュータの導入はPBLの劇的な改善にはなっていない．テュートリアルについては，今後もさらなる改革の継続が必要と思われる．

この研究の要旨は第46回日本医学教育学会大会（2014年和歌山市）で発表した．

表１　４年次学生アンケートの自由記載内容

１）肯定的意見
　　ありがとうございました（22）
　　議論の方向を修正・アドバイスをしてくれた（６）
　　話しやすかった．親しみやすかった（２）
　　雰囲気がよくなった（２）
　　気軽に質問できた（２）
　　６年生を見て知識が豊富で尊敬した（２）
　　学生のわからないところを分かっていた（１）
　　調べてきたことに対しどう考えたらよいかを教えてもらった（１）
　　どのようなことを意識して取り組むとよいか教えてもらった（１）
　　自分がテュートリアルをしていた時の話をしてくれた（１）
　　テュータのモチベーションが高い（１）
　　調べ方について教えていただいた（１）
　　問題提示をしてくれた（１）
　　今までテュータよりもよかった（１）
　　うまくはこべるようになった（１）
２）否定的意見
　　劇的な改善にはなっていない（１）
　　６年生に頼ってしまった（１）
　　学生テュータに答えを言う形になってしまい残念（１）
　　思考のプロセス・ポイントを教えてほしい（１）
　　学生なりの調べ方を教えてほしい（１）
　　時間が長く延長した（１）
　　学生テュータがしゃべりすぎていた（１）
　　プレッシャーがあった（１）
３）その他の意見
　　学生だけのほうがいい（１）
　　学生テュータと医師の両方がいたほうがいい（１）
　　学生テュータの立ち位置が不明瞭（１）
　　テュートリアル課題にだけ詳しくなり系統的学習ができない（１）
　　授業だけやったほうがいい（１）
　　６年生が負担にならないなら続けてもいい（１）

表２　６年次学生テュータに対するインタビュー結果

１）学生テュータをおこなって勉強になったことは何か
　• 他人に分かりやすく説明するという過程を通じてよりその知識を確固としたものにできた
２）学生テュータをおこなって国試勉強はどのような影響を受けたか
　• 国試勉強にもつながっており役に立った
　• その時は勉強時間を圧迫されて煩わしかったが，結果には影響していない
３）学生テュータをおこなって得られたものはなにか
　• 他人に教えるのではなく誘導することが難しいと思った
　• 後輩相手に偉そうにしゃべってしまって罪悪感を感じた
　• 自分がいかに分かっていないか理解できた
４）学生テュータを通し４年生の学習に影響を与えることができたか
　• たった１週間のことであり，テュータの役割はそれほど前面に出るものではないので，それほど影響を与えていないと思う
　• もうすでに４年生がテュートリアルに慣れていたので影響は与えることができたかどうか自信がない